

事例 1 株式会社デンソー

～ 職場ごとに「健康リーダー」が中心となって「健康アクションプラン」を作成して取組 ～

～ 専用アプリを活用して、個人データの見える化と個別フォロー ～

| |
|---|
| 1 企業の概要 |
| <ul style="list-style-type: none">○先進的な自動車技術、システム・製品を提供するグローバルな自動車部品メーカー。○従業員数は、単体で約 4 万人、連結で約 17 万人。 |
| 2 健康確保対策の特徴 |
| <p>(1) 取組の体制、経緯、方針</p> <ul style="list-style-type: none">○本社の健康推進部が中心となって、健康保険組合と共同で全社的な取組を実施。○社長が「デンソー健康宣言」。「健康増進に向けた意識向上と職場での健康管理の推進」をデンソーグループ中期方針に基づく取り組みに位置付け、健康経営を推進。○全社的な組織として、健康協議会（役員、経企、人事、安環、労組、福利厚生）を設置。○各職場に健康リーダー（課長職以上）を選任。 <p>(2) 取組の内容、目標設定、成果</p> <ul style="list-style-type: none">○職場ごとに健康リーダーが中心となって「健康アクションプラン」を作成。アクションプランにより職場ごとの活動を促進（部内運動会、1 分楽しくストレッチ、健康ツナガリ隊等）。さらに、職場活動表彰を導入。○健康アクションプラン作成については各職場で戸惑いがあったが、健康リーダーを集めた会議を開催するとともに、様々なメニューを提示することによりプラン作成を支援。○独自の健康指標「生活習慣スコア」（健診・問診データから個人の生活習慣の実践状況を点数化）を導入し、従業員に通知。スコアの平均値（社内健康レベル）の会社目標を設定し、属性・生活習慣による特性や経年変化等を示し、スコア改善を目指した取り組みを促進。○自社開発の専用アプリ（デンソー健康ステーション、2 万人/4 万人登録）による健診結果、歩数、栄養摂取の個人データの見える化と個別フォロー。 <p>(3) 社会的な評価</p> <ul style="list-style-type: none">○健康経営銘柄 2018・2017○健康経営優良法人 2018・2017○健康寿命をのばそう！アワード第 4 回 <p>(4) 自社の状況（強み・弱み等）を踏まえた工夫や、取組が上手くいくポイント</p> <ul style="list-style-type: none">○「健康リーダー」の選任・活動支援により、職場単位の健康増進活動を促進<ul style="list-style-type: none">・社内全部署に選任する「健康リーダー」に対し、役割・進め方についての周知、出張健康講話等の支援メニューの提供、好事例の共有や職場表彰制度導入を行うことにより、組織的な一体感のある活動推進。○健康度が見える化して、個々人の健康行動に対する気づきを促進<ul style="list-style-type: none">・独自の健康指標「生活習慣スコア」の全社平均値等を定期報告。個々人のスコアと全社平均値との比較などを専用アプリ等を活用し見える化することで、気づきと行動改善（運動、食事、喫煙など）のきっかけ提供。 |